

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400540		
法人名	有限会社 恵成		
事業所名	グループホーム 蕤賓荘		
所在地	〒037-0514 青森県北津軽郡中泊町大字小泊字浜野61-1		
自己評価作成日	平成30年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域で穏やかに安心して過ごせるように支援します。なじみの関係を継続し、入居者様の安心がご家族の安心にもつながるように、全スタッフが地域に溶け込み、さまざまな場面で支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中、食事は出来あいの物を提供するのではなく、全て職員の手料理で提供している。地域柄、入居者・家族・職員が昔からの顔見知りである為、家族のような関係性が築かれ、グループホーム全体がアットホームな雰囲気であり、誰もが気軽に訪問しやすい地域の憩いの場所となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「柔らかにお客さんをもてなやすらぎを与える」を開設以来の理念としています。接遇態度や、日々の介護について職員会議で話し合っている。	グループホーム名の由来でもある「柔らかにお客さんをもてなやすらぎを与える」を理念としている。事業所内に複数掲示しており、日常的に確認できる。職員会議は日中に開催することで夜勤帯職員でも参加でき、職員全員で理念の確認や情報共有を行い、実践に繋げている。	地域の方言の影響なのか、雑な声掛けに聞こえてしまう場面がある。理念の再確認のため職員にアンケートの実施や職員会議等で話し合いの場を持ち、日々のケアの質の向上を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事に踊り手として参加したり、婦人会、食生活改善推進委員などに属して活動している。	町の夏祭りや行事には、職員が婦人会に属して訪問を行ったり、町の委託で料理の講習会に参加して地域のグループホームに料理やお菓子作りを教える等、町の事業所に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問がある時は地域の方に蕤賓荘の見学も兼ねてきてもらうように、家族や、スタッフを通じて声がけしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、待機者、研修、行事などの状況を報告している。その中で出た意見を参考にして、サービス向上に生かすようにしている。	会議は2か月に1回開催している。会議の場で意見や要望があった場合は参考にして、運営に反映させている。他に、独自で診療所の医師と看護師で医療連携会議を開いており、緊急時の対応について情報共有しサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場福祉課、包括支援センターの方には、運営推進会議に出席してもらい、ホームの状況などは把握してもらうようにしている。	役場福祉課、地域包括支援センターとの連絡を密にして情報共有を図っている。運営等に関する課題についてアドバイスを頂く等、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加している。具体的な行為やグレーゾーンについての内部勉強会を行ない、知識を深めるようにしている。居室にかけたり、玄関を施錠したりする事はない。	外部・内部研修の受講で学んだ事の実践として、身体拘束は行っていない。居室や玄関の施錠は行わず、安全を確保しながら入居者の自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	スピーチロック等直接的ではない身体拘束についても、毎月の職員会議で繰り返し話し合うと共に、マニュアルの整備や計画的な研修を通じて十分理解を深め、ケアへの反映に努めていけることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して虐待についての知識は十分みにしているが、なじみの関係性や地域の言葉がきつきこえることがあるので、職員間で注意するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要性が生じたときは、アドバイスできるようにしている。又、包括支援センターと連携をとりながら活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書で説明し、納得を得た上で契約をしている。又、改正がある時は、その都度説明し、同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱があるが、空に状態である。推進委員に御家族の代表もいるので、その時に意見をうかがったり、面会時に要望とかを伺うようにしている	家族の面会時や電話で要望等がないか伺っている。実際の家族からの意向として、看取りは行っていないが終末期の入居者も継続して生活を送っており、家族からの要望を懸命に反映している。急変時も主治医との連携も図れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議は、全員参加できる体制作りをしているので、意見、要望、提案などあった時は全員で検討している。	職員会議以外でも、意見や提案は業務改善やサービス向上に反映されるよう、日常的に話しやすい環境作りに取り組んでいる。有給休暇などの労働環境についても、代表者の柔軟な対応により取得しやすい環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を活用して、基本給の引き上げ、賞与をもうけた。職務、職責などの任用要件を定めたり、パート職員の増員によって、急のシフト交替にも柔軟に対応できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回以上の外部研修を受ける機会を確保し、スタッフのキャリア研修につなげるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中泊町にある全グループホームの輪番制の交流会での意見交換、小泊地区のグループホーム間の交流などがあり、相互間の活動の強化に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問して、ご本人の要望を伺いサービスにつなげている。生活上で必要な福祉用具は、入所前にホームで準備(購入)している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が面会に来た時に、要望などを伺い、サービスにつなげるようにしている。電話連絡やホーム便りで状況を報告したりして、話やすい環境づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なときは再アセスメントして、適切な支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考え方を、職員は共有している。洗濯物をたたんでもらったり、調理の下ごしらえを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常に変化があれば連絡し、面会の際にも話している。2ヶ月に1回のホーム便りは希望であれば、地域外に住んでいる家族の方にも送り喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内行事の見学などに積極的に出かけるように支援している。ホーム行事の際は、家族を通じてなじみの人にも来てもらうようお願いしている。	入居者の家族や知人などの来所時には、ゆったりと過ごせるように支援している。また、馴染みの美容院等への同行にも努め、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の時間を尊重しながらも、おやつや食事の時間は全員で集うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも、病院に面会に行ったりしている。家族に相談されたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらたまって伺うと、答えてくれないので、何気ない普段の会話から把握するように努めている。	入居者との日常会話や行動観察から思いや希望をくみ取るように努め、毎月の会議等に対応について意見を交換している。加えて、家族とも話し合いながら、本人の希望に添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族などから聞き取りしている。又、入居前に利用していたサービスのある方はその担当者より情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事、できないことの情報把握してそれぞれの能力に応じた対応ができるようにしている。ただしできる事であっても、無理強いはいはしないように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、カンファレンスを実施して現状に即した介護計画作成に努めている。	介護計画は、入居者、本人・家族等の関係者との十分な話し合いや情報交換に基づき、本人本位のものを作成している。自立支援の視点を大切に、入居者がその人らしく暮らすためのアイデアや職員間の意見も反映させながら、適切に見直し修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務開始前の記録確認、職員連絡帳、緊急時はスタッフ間の連携連絡などで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時の送迎や、御家族がホームへの宿泊を希望した時にも柔軟な対応をしている。御家族にもホームの食事を食してもらおうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域団体の慰問があったり、毎月2組の方の慰問がある。ボランティアで2ヶ月に1回美容院の方の散髪がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の受診医療機関を継続している。ご本人と御家族が希望するかかりつけ医となっている。	入居後も本人、家族の希望に合うように支援をしている。近くの診療所は、土日祝日は緊急時の対応ができないため、その際の協力医療機関との連携も図り、緊急時にも適切な医療を受けられる状況である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疑問がある時は、月に一回の医療との連携会議の時や、受診前、受診時に相談してアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族に主治医から病状についての説明がある時は、差し支えなければ同席したい旨を主治医や看護師さんに伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでは看取りは行ってないことを入所時に説明済みであるが、御家族の希望を伺い、主治医と連携して、ホームでできる最大の支援を検討し、行っている。	重度化や終末期のケアについては、状況に応じて本人や家族と十分に話し合い、主治医をはじめとする関係者との連携を密にして、グループホームでできる限りの支援が実施できる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが心配蘇生法、救急法を受講して初期対応の実践を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員出席の避難訓練、通報訓練、消火訓練・津波想定訓練などを、ホームの防災協力委員にも出席してもらい行っている。	年2回の夜間の火災を想定した訓練と、津波を想定した訓練を年1回行っている。地域住民と、避難場所・方法の確認も定期的に行っており、協力体制が築かれている。緊急時の備蓄等も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭いホームの中で、プライバシーを損ねるような対応にならないように、又、雑な言葉掛けにならないように折に触れてスタッフ間で注意しあったりしている。	地域性なのか、日常会話は方言を多用しているため、時に雑な声かけになってしまう事がある。日頃から職員間で注意しあって尊厳やプライバシーに配慮した声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、外出は個々の希望聞き入れるようにしている。嫌いな食べ物は代替にしたり、できる範囲で対応している。レク活動は自分で決める場年作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで決めている1日の流れはあるが、本人の気持ちを優先して、無理強いはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自由に選べるようにハンガーラックにかけている。入所前からの美容院さんに来てもらう人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、食欲がない時などはご本人が好んで食するものを添えている。できるひとには山菜や野菜の下ごしらえを手伝ってもらっている。	地域住民からの食材のお裾分けを献立に取り入れている。また、食材の下ごしらえは入居者と一緒に行うなど、楽しみながら食事ができる支援をしている。また、入居者の好みも伺い、献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は意識して関わっている。嚥下状態などに応じてミキサー、刻み、とろみなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の力に応じて見守ったり、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	特別の状況にある人以外は個々の状況に応じてトイレでの排泄をしている。	身体状況によってトイレでの排泄ができない方にはおむつを使用しているが、排泄表にて排泄パターンを把握し可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに乳製品を取り入れてたり、水分摂取量などを意識してすすめている。状況に応じて下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ホームで決まっている個々の入浴日以外でも希望があれば、入浴してもらっている。	入浴は週2回としているが、希望があれば、対応できる体制が整えられている。また、入浴実施日が週4日であることから入浴日の変更も可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促がす支援をしているが、夜間眠れない人は、ホールで夜勤者と過ごす人もいます。入眠状態の確認、居室の室温、寝具の確認を行い安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の一覧表を掲示しているので疑問のある時は確認するようにしている。臨時に処方された薬は、申し送りと眼につきやすい場所に置き場を決めて、間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残像機能の活かして、できる事をお願いをして自信につながる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、地域行事に出かけるようにしているが、拒否する方が多く、誘い出すのに一苦労している。	希望があれば、急な外出にも対応できるようにしている。行事参加を希望しない場合は受容して入居者本位に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望で、ホームで管理している人がほとんどだが、本人の状況に応じて、家族と相談して、小額を所持させている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる娘さんから便りがくるので、ホーム便りを送る際に声掛けしてご本人直筆の手紙をいれて送ってやっている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの畳敷きの場所にソファを配置して底に座ったり寝転がったりと自由なスタイルで過ごしている。玄関を出ると、畑があり、居室の窓から季節感を感じる事ができる。	共用空間は、ソファや椅子、畳敷きのスペースも有り自由に過ごされている。開設時から毎年年頭には入居者全員で集合写真を撮り、グループホーム内に飾られており、居心地の良い空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、特別な状態ある日と以外は、各自で思い思いに場所を決めて、そこに集っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箸、湯のみ茶碗など自宅で使い慣れたものを持ち込んで使用している。	居室は窓も広く明るく、家族により入居者の馴染みの写真・日用品が置かれて、日常が本人のペースで居心地よく過ごせるように配慮されている。また、ベッドや家具の配置も本人やご家族の希望に沿うように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を理解して、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごしてもらおうようにしている。		